

⑤研究指導・研修等に関する事業一覧

プロジェクト名	担当部門	頁
国際研修 漆の保存と修復（修14）	修復技術部	95
博物館・美術館等の保存担当学芸員研修（保06）	保存科学部	96
連携大学院教育（共）	保存科学部	98
博物館学実習（美15）	美術部	99
博物館・美術館等の館内環境調査と援助・助言（保13）	保存科学部	100
文化財の材質構造に関する調査・助言（保）	保存科学部	102
文化財の保存修復及び整備に関する調査・助言（修）	修復技術部	103
無形の文化財の保存・伝承・活用等に関する調査・助言	芸能部	103
文化財の虫害等に対する調査（保）	保存科学部	104
龍門石窟研究院研究員の受け入れ（セ）	国際文化財保存修復 協力センター	104

国際研修 漆の保存と修復 (⑤修 14-03-1/3)

目 的

海外で保管されている漆芸文化財は、日本と違った気象環境の中で保管されており、乾燥による木地割れや漆塗膜の剥離などの損傷を持った作品が多い。また、不慣れな取り扱いによって破損する場合もある。漆芸品の保存修復を行うには、素材・技法などの理解と、その取り扱いや修復に関する実技研修が必要である。本研修は、漆に関する保存修復の演習を通して、研修参加者に漆芸品修復に関わる基礎知識を伝えるものである。

概 要

研修日程 2003 (平成 15) 年 9 月 16 日 (火) ～10 月 3 日 (金)

研修場所 東京文化財研究所修復技術部第 2 修復アトリエ

研修対象 漆の保存と修復を担当する学芸員および保管担当者

研修内容<講義>

日本の漆工品	加藤 寛	東京文化財研究所修復技術部伝統技術研究室長
日本漆芸の歴史	高橋 隆博	関西大学文学部教授
漆芸品の梱包と取り扱い	岩淵 建夫	東京国立博物館文化財部列品室
化学の目から見た「うるし」	早川 典子	東京文化財研究所修復技術部修復材料研究室
漆芸品修復の概念と事前調査	山下 好彦	漆芸文化財修復家
光学的手法で見る漆器	三浦 定俊	東京文化財研究所協力調整官
屈輪文犀皮の復元	松本 達弥	漆芸作家・文化財修復家
黒漆兜の修復	田口 義明	漆芸作家・文化財修復家
風景蒔絵ナイフアーンの修復	勝又 智志	漆芸作家・文化財修復家
「螺鈿法華経字唐花唐草文経箱」の修復について	北村 繁	漆芸作家・文化財修復家

<実習>

9 月 6 日～9 月 29 日：漆塗り手板・蒔絵手板・螺鈿手板の作成

9 月 30 日～10 月 2 日：作品の養生・クリーニング・漆固めなど漆文化財の基本的修復実習

9 月 20 日～9 月 23 日：長野県木曾郡檜川村を訪れて、木地・漆塗り・蒔絵・沈金などの漆器製作工程を見学

10 月 3 日：参加者による仕事の紹介と漆器の保管状況や損傷問題などを発表し意見交換を行った。

研修参加者 (10 名)

ショウ・スザンナ	ヴィクトリア国立博物館	オーストラリア
カンツェンバッハ・ビルギット	ベルリン民族博物館	ドイツ連邦共和国
ケネガン・ブレンダ	ヴィクトリア&アルバート美術館	イギリス
エテザディ・ミトラ	テヘラン国立博物館	イラン
スパダベッキア・フィオレッラ	ヴェネチア東洋美術館	イタリア
グットマン・マルタ	アストラ・シビウ博物館	ルーマニア
ニルピライ・ポム	バンコク文化情報省	タイ
カー・メリッサ	プライベートコンサバター	アメリカ
グリフィス・ロジャー	ニューヨーク近代美術館	アメリカ
グエン・グェット	ヴェトナム現代美術館	ヴェトナム

<報告書> 1 件 『Urushi 2003, International Course on Conservation of Japanese Lacquer』 04.3

研究組織

○加藤 寛、早川 典子、齋藤 潮美、須藤 良子 (以上、修復技術部)

博物館・美術館等の保存担当学芸員研修 (⑤保 06-03-3/5)

(1) 保存担当学芸員研修 期間：2003（平成15）年7月8日（火）～18日（金）、参加者数 30名

近年博物館・美術館の数が増加すると共にその施設が近代化し、燻蒸室、保存・修理などの保存に関する設備が整備されて保存部門を担当する職員が配置されつつある。しかし、これらの職員が保存科学の知識や技術を修得しようとしても適当な学習の場がないのが現状である。そのために博物館、美術館などの学芸員の保存担当者を対象に、文化財の科学的保存に関する基本的な知識及び技術について研修を行い、その資質の向上をもって文化財の保護に資することを目的とし、第20回研修会を開催した。

7月8日（火）

保存科学 総論		三浦定俊
保存環境 各論	—文化財の材質と構造—	佐野千絵
保存環境 各論	—温湿度—	石崎武志
保存環境〈実習〉	—温湿度測定機器の取扱い—	石崎武志

7月9日（水）

調査手法 各論	—構造調査—	三浦定俊
保存環境 各論	—光と劣化・照度基準—	佐野千絵
保存環境〈実習〉	—湿度の制御法—	石崎武志
保存環境 各論	—室内汚染—	佐野千絵
保存環境〈実習〉	—室内汚染の測定法と環境調査—	佐野千絵

7月10日（木）

保存環境 各論	—大気汚染とその影響—	早川泰弘
調査手法 各論	—材質調査—	早川泰弘
保存環境 各論	—展示・梱包ケースの温湿度調節—	東京国立博物館 神庭信幸
保存環境〈実習〉	—東京国立博物館の資料保全計画—	神庭信幸

7月11日（金）

生物被害 概論		木川りか
生物被害 各論	—文化財害虫—	山野勝次・木川りか
生物被害〈実習〉	—文化財害虫同定—	山野勝次・木川りか
劣化と保存 各論	—木造品—	西浦忠輝
劣化と保存 各論	—遺跡調査—	石崎武志・佐野千絵

7月14日（月）

生物被害 各論	—生物防除法—	木川りか
生物被害 各論	—カビ—	木川りか
生物被害〈実習〉	—カビの除去—	保存修復支援技術者 絵画・書跡 山本記子
生物被害〈実習〉	—殺虫処置—	木川りか・石崎武志

7月15日（火）

劣化と保存 各論	—日本画—	昭和女子大学 増田勝彦
劣化と保存 各論	—紙—	増田勝彦
劣化と保存 各論	—漆工品—	加藤 寛
保存環境〈実習〉	—調査1—	石崎武志・佐野千絵・木川りか

7月16日（水）

ケーススタディ	—博物館・美術館における収蔵・展示の問題とその対策—	西浦忠輝・石崎武志・佐野千絵
---------	----------------------------	----------------

7月17日（木）

劣化と保存 各論	—油彩画—	東京芸術大学名誉教授 歌田真介
劣化と保存 各論	—修復材料—	早川典子

劣化と保存 各論 —考古資料—
保存環境〈実習〉 —調査2—

青木繁夫
石崎武志・佐野千絵・木川りか

7月18日(木)

博物館の設計と設備 —防災・防犯—
文化財の国際交流

三浦定俊
西浦忠輝

研修参加者名及び所属

浅湫 毅	京都国立博物館	仙海 義之	財団法人香雪美術館
阿部 哲人	米沢市上杉博物館	高木 久史	織田町歴史資料館
石田 文一	石川県立歴史博物館	高屋 茂男	園部文化博物館
今村 賢司	愛媛県生涯学習センター県民メモリアルホール(愛媛人物博物館)		
上江洲安亨	財団法人海洋博覧会記念講演管理財団首里城管理センター		
大塚 健	国立歴史民俗博物館管理部資料課	角田美奈子	名古屋市美術館
大屋 美那	国立西洋美術館	道津 綾乃	神奈川県立金沢文庫
織田 顕行	飯田市美術博物館	中澤 達也	土浦市立博物館
影山 千夏	高知県立美術館	中村 麗子	東京国立近代美術館
加藤 和歳	九州歴史資料館	長屋 光枝	国立新美術館設立準備室
神谷 剛生	刈谷市美術館	廣瀬 浩保	明治神宮宝物殿
河内えり子	財団法人佐野美術館	松尾 知子	千葉県美術館
後藤 文子	宮城県美術館	宮城 利旭	沖縄市立郷土博物館
小林 達郎	文化庁文化財部美術学芸課	築頼 大輔	群馬県教育委員会文化スポーツ部文化課
笹川 修一	上越市立総合博物館	山口隆太郎	北区飛鳥山博物館
佐野 素子	岐阜県現代陶芸美術館	山谷規代美	広島平和記念資料館

(2) 資料保存地域研修

博物館・美術館などの文化財公開施設における資料保存は、保存を担当する学芸員の努力によっていることはもちろんであるが、学芸員以外の館長、事務官や警備員、監視員、空調機器の管理・保守作業員など、博物館の様々な業務に携わる多くの人々の理解がなければ、円滑に進まない。特に2004年末の臭化メチルの全廃に向け、IPM(総合的害虫管理)を実施するために、できるだけ多くの館関係者に文化財の保存に関する基礎的な知識を理解してもらう必要がある。本研修は文化財保護に関する知識を、文化財公開施設に勤務するできるだけ多くの職員に短い日数で学んでもらうため、各地の博物館協議会などの協力を得て1998年度より開催されているものである。

[第10回] 2003(平成15)年5月14日、15日 於:高知市立自由民権記念館、共催:高知ミュージアムネットワーク

参加者数 76名

プログラム・講師

保存環境の概論	佐野千絵
温湿度の制御と管理	石崎武志
空気汚染の制御と管理	佐野千絵
照明の制御と管理	石崎武志
これからの生物被害防除法	佐野千絵

[第11回] 2004(平成16)年1月20日、21日 於:福井県立歴史博物館、共催:福井県博物館

参加者数 40名

プログラム・講師

保存環境の概論	西浦忠輝
温湿度の制御と管理	石崎武志
空気汚染の制御と管理	吉田直人
照明の制御と管理	吉田直人
これからの生物被害防除法	石崎武志

⑤研究指導・研修等 Area22,23

[第12回] 2004(平成16)年2月4日、5日 於：鹿児島県歴史資料センター黎明館、共催：鹿児島県博物館協会

参加者数 50名

プログラム・講師

保存環境の概論	三浦定俊
温湿度の制御と管理	石崎武志
空気汚染の制御と管理	石崎武志
照明の制御と管理	吉田直人
これからの生物被害防除法	三浦定俊

(3) 博物館・美術館等保存担当学芸員研修フォローアップ研修、2003(平成15)年6月16日、於：東京文化財研究所
参加者 58名

当研究所で開催している博物館・美術館等保存担当学芸員研修は、昭和56年に始まる長い歴史を持ち、これまでの修了者数も350名以上にのぼる。それらの修了生の活躍により、当研修は保存科学の知識の普及のために大きな役割を果たしてきた。しかし2004年末の殺虫燻蒸剤臭化メチル全廃を前に、生物被害防止対策が予防を中心としたものになりつつあるなど、時代の進展に伴いこれまでとは違った新しい知識が学芸員に要求されている。そこで本研修は、これまでの保存担当学芸員研修終了者を対象に、その職務に必要な最新の知識を常に持てるよう、再研修を行おうとするものである。

プログラム・講師

温湿度制御の考え方—資料の水分量の制御—	石崎武志
照明の考え方—累積照度—	三浦定俊
空気環境の諸問題—室内汚染物質—	佐野千絵
生物被害防除の新しい考え方—IPM—	木川りか

連携大学院教育 東京芸術大学：システム保存学（保存環境学、修復材料学）(⑤共)

1995(平成7)年4月より東京芸術大学大学院と連携して大学院教育を行い、21世紀の文化財保存を担う人材を育成している。システム保存学教室は、文化財の保存環境を研究する保存環境学講座と保存修復に用いる材料について研究する修復材料学講座の2講座から成っている。各講座3名ずつ研究所所員が併任教官として研究教育指導に当たっている。

大学院学生の定員は、修士・博士課程ともに各学年2名である。平成15年度は5名の修士課程大学院生が在籍した。

(1) 併任教官及び主たる担当授業

保存環境学講座

併任教官 三浦定俊(協力調整官)	保存環境計画論(前期)
併任教官 石崎武志(保存科学部物理研究室長)	保存環境学特論(後期)
併任助教授 佐野千絵(保存科学部生物科学研究室長)	保存環境学演習(後期)

修復材料学講座

併任教官 青木繁夫(修復技術部長)	修復計画論(前期)
併任教官 加藤寛(修復技術部伝統技術研究室長)	修復材料学特論(前期)
併任助教授 川野邊渉(修復技術部修復材料研究室長)	修復材料学演習(前期)
客員教授 渡邊明義	
助手 松島朝秀	

(2) 文化財保存学演習

2003(平成15)年10月9日

「保存環境学特論」(於：東京文化財研究所)

石崎武志 併任教官

博物館学実習 (⑤美 15-03-3/5)

画家黒田清輝の作品、資料を所蔵・展示する黒田記念館を担当管理する美術部では、博物館学教育に資するため、毎年、博物館学実習を開催している。黒田記念館の性格上、実習内容は日本の近代美術資料に関するものが主となっている。平成15年度は下記の日程で行われた。

第1日	9月8日(月)		
10:00	オリエンテーション		美術部黒田記念近代現代美術研究室
10:30	美術史研究と光学的画像		美術部広領域研究室 津田徹英・山梨絵美子
13:30~14:00	東京文化財研究所所蔵の美術資料		美術部黒田記念近代現代美術研究室 塩谷 純
14:00~14:30	近・現代美術資料の収集・作成の意義と現状		美術部黒田記念近代現代美術研究室
14:30~17:00	近・現代美術資料の収集・作成		美術部黒田記念近代現代美術研究室
第2日	9月9日(火)		
全日	近・現代美術資料の収集・作成		美術部黒田記念近代現代美術研究室
第3日	9月10日(水)		
全日	近・現代美術資料の収集・作成		美術部黒田記念近代現代美術研究室
第4日	9月11日(木)		
10:00~11:00	文化財保存について		保存科学部生物科学研究室 佐野 千絵
11:00~12:00	文化財の修復について		修復技術部伝統技術研究室 加藤 寛
13:00~17:00	近・現代美術資料の収集・作成		美術部黒田記念近代現代美術研究室
第5日	9月12日(金)		
10:00~12:00	近・現代美術資料の収集・作成		美術部黒田記念近代現代美術研究室
13:00~14:00	美術史学研究と情報処理		情報調整室 綿田 稔
14:00~15:00	展示について		美術部黒田記念近代現代美術研究室 田中 淳
15:20~17:00	美術品の調査について		美術部 中野 照男 美術部 勝木言一郎
第6日	9月13日(土)		
全日	展覧会見学とまとめ		

平成15年度は、7大学から11名の実習生を受け入れた。なお実習生にはアンケートを実施し、各質問事項に対する回答は下記の通りであった。ほぼ全員が満足感を得たことがわかる。

1. 実習のカリキュラムについて
「充実していた」2名、「満足した」4名、「余裕があった」1名、「普通」1名、「もの足りなかった」2名、無回答1名
2. 実習の内容について
「満足した」3名、「勉強になった」6名、「普通」1名、無回答1名
3. 実習の環境について
「充実していた」4名、「満足した」5名、「普通」1名、無回答1名

博物館・美術館等の環境調査と援助・助言 (⑤保 13-03-2/4)

国宝・重要文化財などの指定品および東京国立博物館収蔵資料の借用に関して館内環境調査を行い、報告書を作成・提出した。

北海道	紋別市立博物館	三重	亀山市歴史博物館
岩手	一関市博物館	三重	松阪市文化財センターはにわ館
岩手	花巻市博物館	京都	園部文化博物館
茨城	茨城県陶芸美術館	大阪	大谷女子大学博物館
茨城	しもだて美術館	兵庫	兵庫県立美術館
栃木	那須野が原博物館	広島	尾道市立美術館
千葉	千葉県立関宿城博物館	広島	財団法人蘭島閣文化振興財団
東京	旧新橋停車場 鉄道歴史展示室	山口	厚母大仏収蔵施設
福井	福井県立一乗朝倉氏遺跡資料館	福岡	北九州市立自然史・歴史博物館
福井	福井市立郷土歴史博物館	大分	大分県立先哲史料館
長野	財団法人水野美術館	大分	長岩屋伝統文化伝習施設
岐阜	岐阜県現代陶芸美術館	宮崎	宮崎県立西都原考古博物館

現地調査は土浦市立博物館、川越市お祭り会館、国立公文書館、学習院大学史料館、文化服装学園服飾博物館、旧新橋停車場 鉄道歴史展示室、東京オペラシティーアートギャラリー、神奈川県立近代美術館葉山館、上越市総合博物館、福井市立郷土歴史博物館、永平寺、京都国立博物館、泉涌寺、高野山霊宝館、毛利博物館の15館。

また紋別市立博物館など、全国140館の新設既設美術館・博物館等文化財展示収蔵施設に対して環境改善に関する相談を受け、助言を行った。これらの館については各館ごとに環境調査ファイルを作成して調査を行っている。

北海道	紋別市立博物館	千葉	千葉県立関宿城博物館
青森	青森県立美術館		戸定歴史館
岩手	花巻市博物館		千葉市美術館
	盛岡市文化財センター		城西国際大学水田美術館
	盛岡市先人記念館		東山魁夷記念館
秋田	秋田市立千秋美術館	東京	日本銀行金融研究所貨幣博物館
	秋田県立博物館		東京国立近代美術館
福島	福島県文化財センター白河館		国立科学博物館
	富岡町歴史民俗資料館		国立公文書館
	諸橋近代美術館		国立新美術館
茨城	国土地理院地図と測量の科学館		(財)江戸東京博物館
	茨城県陶芸美術館		八王子市夢美術館
	しもだて美術館		品川区歴史館
栃木	栃木県立博物館		目黒区美術館
	那須野が原博物館		学習院大学史料館
	とちぎ蔵の町美術館		明治大学考古博物館
	鏝阿寺		文化服飾学園服飾博物館
群馬	群馬県立歴史博物館		旧新橋停車場 鉄道歴史展示室
埼玉	埼玉県立博物館		東京オペラシティーアートギャラリー
	川越市お祭り会館		明治神宮文化館宝物展示室
	寄居町埋蔵文化財センター鉢形城資料館		聖徳記念絵画館

	靖国神社資料館		高槻市しろあと歴史博物館
神奈川	神奈川県立金沢文庫		大谷女子大学博物館
	神奈川県立近代美術館葉山館	兵庫	兵庫県立陶芸館
	三溪園保勝会		小野市好古館
	平間寺収蔵庫		龍野市立歴史文化資料館
新潟	新潟県立歴史博物館		日高町歴史博物館
	新潟市郷土歴史博物館		新宮町埋蔵文化財センター
	上越市総合博物館	奈良	高松塚古墳
福井	福井県立一乗谷朝倉氏遺跡史料館	和歌山	和歌山県立近代美術館
	福井市郷土歴史博物館		高野山霊宝館
	大本山永平寺	島根	島根県芸術センター
山梨	山梨県立博物館		島根県古代文化センター
	平山郁夫シルクロード美術館		島根県立美術館
長野	松本市美術館		三隅町立石正美術館
	佐久市立近代美術館		荒神谷資料館
	坂城町鉄の展示館		並河萬里写真財団
	浅間縄文ミュージアム	岡山	岡山市デジタルミュージアム
	水野美術館		御津町郷土歴史資料館
岐阜	岐阜県現代陶芸美術館		成羽町美術館
静岡	MOA 美術館	広島	大聖院
	浜松市美術館		尾道市立美術館
	細江町立姫街道歴史博物館		(財) 蘭島閣文化振興財団三之瀬御本陣芸術文化館
	霊友会弥勒山弥勒堂		奥田元宋 小由女美術館
愛知	名古屋市蓬左文庫	山口	下関市立考古博物館
	豊川市二川宿本陣資料館		萩市郷土資料館
	産業技術記念館		厚母大仏収蔵施設
	はるひ美術館		周南市美術館
三重	三重県立美術館		毛利博物館
	四日市市立博物館	香川	東山魁夷美術館 (仮称)
	松阪市文化財資料館		香川県文化会館
	朝日町歴史博物館	愛媛	松野町目黒ふるさと館
	亀山市歴史博物館	高知	高知県立文学館
	伊勢神宮神宮文庫		土佐山内家宝物資料館
滋賀	滋賀県立琵琶湖博物館	福岡	北九州市自然史歴史博物館
	彦根城博物館		伊都歴史資料館
京都	京都国立博物館		王塚古墳
	京都市元離宮二条城		竹原古墳
	宇治市源氏物語ミュージアム	佐賀	佐賀城本丸歴史館
	八幡市立松花堂美術館		佐賀県立名護屋城博物館
	泉涌寺心照殿	長崎	国立長崎原爆死没者追悼平和記念館
	佛教大学アジア宗教文化情報研究所		長崎県立美術館 (仮)
	大谷大学博物館	熊本	熊本市立熊本博物館
	桂文化財修理工房	大分	大分県立先哲史料館
大阪	大阪歴史博物館		大分県立芸術会館
	和泉市いずみの国歴史館		長岩屋伝統文化伝習館

	大分県マリンカルチャーセンター	鹿児島	鹿児島県立埋蔵文化財センター
宮崎	宮崎県立西都原考古博物館	沖縄	沖縄県立博物館新館
	都城市立美術館		

文化財の材質に関する調査と援助・助言 (⑤保)

(1) 文化財の材質調査

様々な文化財資料について、その材料や彩色を蛍光X線分析法や ICP 分析法などで測定して化学組成を明らかにするとともに、X線回折分析法で物質の化学的構造を調査した。蛍光X線分析については、可搬型の装置を用いて、文化財資料が置かれている場所での現地調査も実施した。調査終了後には報告書を作成し、分析依頼元へ提出した。

(資料)	(依頼者)
漆絵箱	東京芸術大学
漆手箱・料紙箱	東京文化財研究所修復技術部
屏風	MOA 美術館
漆喰作品	長八美術館
金銅仏	奈良国立博物館
金銅仏	笠岡市教育委員会
漆手箱	サントリー美術館
和時計	高知県工業技術センター
染織品	神戸女子大学
木造彩色	東京文化財研究所修復技術部
屏風	根津美術館
日本画	三の丸尚蔵館
日本画	文化庁
出土木製品	長野県埋蔵文化財センター
江戸期金属製品	京都大学
日本画	東京芸術大学
漆製品	MOA 美術館
漆製品	浦添市美術館
金属製品	東京国立博物館
壁画剥落片	中国文物研究所
漆製品	東京文化財研究所修復技術部

(2) X線透視撮影による構造調査

	資料名	所蔵者 (依頼者)
絵画	燕子花図屏風	根津美術館
	紅白梅図屏風	MOA 美術館
彫刻	金銅仏 (菩薩像)	奈良国立博物館
	大日如来像	個人蔵 (東京国立博物館)
工芸品	香合	泉屋博古館
	漆器	出光美術館
	漆器 (硯箱)	三の丸尚蔵館
	漆器 (絵箱)	輪王寺
	佐賀藩製造蒸気船雛形	鍋島報効会
	写真機	同
	刀剣	日本美術刀剣保存協会
	漆器 (彩絵鼓胴)	手向山神社 (文化庁)

文化財の修復及び整備に関する調査・助言 (⑤修)

- ・三ノ丸尚蔵館所蔵「蒔絵文台・硯箱」の修復指導 (加藤 寛)
桃山時代の高蒔絵に使用されている盛り上げ材料の劣化原因についての指導を行った。
- ・国宝「浮線綾蒔絵螺鈿手箱」の復元模造に関する指導 (加藤 寛)
サントリー美術館所蔵の蒔絵手箱の復元模造に関する材料技法についての指導で、関連調査として畠山記念館所蔵の蒔絵手箱の調査も行った。
- ・福島県三島町の「ヒロロ細工・葡萄蔓細工・マタタビ細工」に関する調査及び指導 (加藤 寛)
縄文時代から伝わる日本独自の編組物の調査指導を行った。
- ・徳島県「大谷焼」に関する調査及び指導 (加藤 寛)
江戸時代より伝えられる藍瓶の製造工程に関する調査と指導を行った。
- ・広島県川尻町「筆」に関する調査指導 (加藤 寛)
中世より伝えられている伝統的な毛筆の製造過程に関する調査及び指導を行った。
- ・近世産業遺品「トヨタコレクション」の展示と保存修復に関する指導 (加藤 寛)
2005年に開催される名古屋万国博覧会での近世産業遺品に関する展示及び保存修復方法の調査ならびに指導を行った。
- ・国宝高松塚古墳壁画の保存点検 (青木繁夫、川野邊 渉、早川典子)
- ・史跡宮崎県西都原古墳保存整備指導 (青木繁夫)
- ・鎌倉市永福寺出土遺物の修復指導 (青木繁夫)
- ・重要文化財明治丸の修復に関する調査指導 (川野邊 渉、早川典子)
重要文化財明治丸の劣化状況の調査と修復材料と修復方針に関する相談に応じた。
- ・宗谷修復に関する調査指導 (川野邊 渉、早川典子)
宗谷の定期修理に伴い、修復予定の搭載艇が木部の劣化が著しいため、劣化状況の調査を行い、CFRP (カーボン繊維強化プラスチック) による強化と修復方法の指導を行った。
- ・第五福竜丸展示館における展示環境改善指導 (川野邊 渉、森井順之)
第五福竜丸展示館において温度湿度の測定を行い、展示環境の改善のための指導を行った。
- ・第五福竜丸エンジンの防錆処理の指導と経過観察 (川野邊 渉)
防錆処理の施工指導とその後の経過観察を通して維持管理の指導を行った。
- ・東京国立近代美術館蔵横山大観作「生々流転」修復に関する調査指導 (川野邊 渉、早川典子)
横山大観作「生々流転」に生じた障害の原因調査と修復方法の指導を行った。
- ・グレイトフォールズ (GF) 型転炉の防錆処理の指導と経過観察 (川野邊 渉、森井順之)
1922年から30年以上、四坂島の銅の製錬所で使用された転炉で、廃棄後長時間海浜に放置されたことにより内部から腐食が進んでいる。その規模と予算的・時間的制約から脱塩処理がされず、表面に厚い合成樹脂層が形成されている。内部の水分の滞留による錆の進行を抑えるために、表面層の一部除去と再処理を指導し、その後の経過観察を行っている。
- ・史跡フゴッペ洞窟の岩体変位測定 (内田昭人)
続縄文時代に刻画が施された岩体の経年的な挙動を測定し、刻画保存の指導を行っている。

無形の文化財の保存・伝承・活用等に関する調査・助言 (⑤芸)

無形の文化財の保存・伝承・活用等に関する各種委員会等へ出席し、以下の調査・助言を実施した。

- (1) 文部科学省教育映画等審査に関する助言 11件
- (2) 文化庁伝統文化課に対する助言 (ふるさと歌舞伎大集合の企画に関して) 2件
- (3) 文化庁伝統文化課地域文化振興室に対する助言 (文化体験プログラム支援事業、文化芸術による創造のまち

⑤研究指導・研修等 Area25,26

支援事業に関して) 3件

- (4) 文化財行政講座に関する調査・助言 2件
- (5) ふるさと文化再興事業に関する助言 2件
- (6) (財) 伝統文化活性化国民協会への助言 (伝統文化データベース、伝統文化こども教室関連事業に関して)

6件

- (7) 全国民俗芸能大会に関する調査・助言 5件
- (8) 全国青年大会郷土芸能の部運営委員会での助言 2件
- (9) 国立劇場に対する助言 8件
- (10) 日本芸術文化振興会デジタルライブラリーコンテンツ選考委員会での助言 1件
- (11) 大阪府立上方演芸資料館への助言 1件
- (12) 横浜能楽堂自主公演への助言 3件
- (13) 早稲田大学演劇博物館への助言 5件
- (14) 講談調査推進委員会への助言 (講談記録作成事業に関して) 10件

文化財の虫菌害に対する調査指導 (⑤保)

文化財の虫・カビ等の被害への対応について問い合わせを受け、指導・助言を行った (佐野千絵・木川りか・山野勝次・石崎武志・三浦定俊)。

- (1) 文化財の虫菌害に対する現地調査 11件
- (2) 相談受付施設 77件

龍門石窟研究院研究員の受け入れ (⑤セ)

目 的

東京文化財研究所では、世界の貴重な文化遺産である中国の龍門石窟の保存について、中国・龍門石窟研究院と協力して調査、研究をしているが、その協力事業の中でも、特に龍門石窟研究院の人材育成は極めて重要な課題であるため、若手の研究者を日本に招へいし、石窟の保存修復に関する種々のテーマについて研修を行っている。

研修内容

平成15年度は、2003年1月から国際協力機構(JICA)の経費により受け入れていた范子龍研究員の研修を、引き続き2003年9月まで行った。研修においては、龍門石窟の状況と類似した問題を持つ日本国内の遺跡として、鎌倉市の「やぐら群」をフィールドとし、そこで起きている劣化現象に関して自らの問題意識で解明し、それに対する保存対策を考察していく課程を訓練した。その結果、やぐらの劣化の一因として、例外的な豪雨時に内部に水が浸入して水面が形成されてしまうことがあると判明した。この成果は、やぐらの保存に貢献するとともに、龍門石窟における保存対策を検討する上でも有効と考えられる。また、得られた成果は関連学会においても発表され、高い評価を得た。